

2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月12日

上場会社名 岡本硝子株式会社
 コード番号 7746 URL <https://ogc-jp.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長
 問合せ先責任者 (役職名) IR担当部長
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 04-7137-3111

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|---------------|-------|------|------|------|------|------|------------------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2021年3月期第3四半期 | 3,255 | 23.1 | 352 | | 423 | | 595 | |
| 2020年3月期第3四半期 | 4,235 | 12.9 | 144 | 61.3 | 22 | 93.5 | 41 | 82.7 |

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 581百万円 (%) 2020年3月期第3四半期 16百万円 (92.0%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|---------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2021年3月期第3四半期 | 25.62 | |
| 2020年3月期第3四半期 | 1.77 | |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---------------|-------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2021年3月期第3四半期 | 8,037 | 1,533 | 19.1 |
| 2020年3月期 | 7,482 | 2,095 | 28.0 |

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 1,533百万円 2020年3月期 2,095百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2020年3月期 | | 0.00 | | 0.00 | 0.00 |
| 2021年3月期 | | 0.00 | | | |
| 2021年3月期(予想) | | | | 0.00 | 0.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|-------|------|------|---|------|---|-----------------|---|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 4,300 | 21.7 | 590 | | 690 | | 870 | | 37.40 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|-------------------|------------|--------------|------------|--------------|
| 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 2021年3月期3Q | 23,305,543 株 | 2020年3月期 | 23,195,153 株 |
| 期末自己株式数 | 2021年3月期3Q | 750 株 | 2020年3月期 | 750 株 |
| 期中平均株式数(四半期累計) | 2021年3月期3Q | 23,249,598 株 | 2020年3月期3Q | 23,160,047 株 |

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 2 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 9 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 9 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 9 |
| (セグメント情報等) | 10 |
| (重要な後発事象) | 11 |
| 3. その他 | 12 |
| 継続企業の前提に関する重要事象等 | 12 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行により、経済活動が大きく停滞し、厳しい状況にありました。米国では、経済活動の再開が段階的に進められているなかで、景気は持ち直しの動きもありますが、依然として厳しい状況にあります。ヨーロッパ地域では、感染症再拡大に伴う経済活動の抑制などにより景気は厳しい状況にあります。中国では、消費と固定資産投資の持ち直しにより、景気は緩やかに回復しております。日本経済は、公共投資は、堅調に推移しているものの、設備投資が減少し雇用情勢が悪化を見せるなど景気は厳しい状況でした。

当第3四半期連結累計期間において、プロジェクター需要は、フラットパネルディスプレイの価格低下の影響に加えて、新型コロナウイルス感染拡大による、世界各国での経済活動の制限、イベントの延期・中止などの影響で落ち込み、これにより、当社グループの反射鏡及びフライアイレンズへの需要は減少しました。

こうした、プロジェクター市場縮小による反射鏡及びフライアイレンズの受注低迷を鑑みて、有形固定資産について将来の回収可能性を検討した結果、回収可能額まで減損し、減損損失130百万円を計上しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高3,255百万円(前第3四半期連結累計期間比23.1%減)、経常損失423百万円(前第3四半期連結累計期間の経常利益22百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失595百万円(前第3四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益41百万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

①光学事業

当第3四半期連結累計期間の売上高は1,191百万円と前年同期と比べ1,094百万円(47.9%)の減収となり、セグメント損失(営業損失)は175百万円と前年と比べ535百万円(前第3四半期連結累計期間のセグメント利益は359百万円)の減益となりました。

プロジェクター用反射鏡は、販売数量が前年同期比で49.1%減少し、売上高は52.5%減少いたしました。フライアイレンズは、販売数量が前年同期比で46.4%減少し、売上高は42.1%減少いたしました。

②照明事業

当第3四半期連結累計期間の売上高は398百万円と前年同期と比べ127百万円(24.3%)の減収となり、セグメント損失(営業損失)は0百万円と前年と比べ7百万円(前第3四半期連結累計期間のセグメント利益は6百万円)の減益となりました。ヘッドアップディスプレイ向けレンズの売上高が減少いたしました。

③機能性薄膜・ガラス事業

当第3四半期連結累計期間の売上高は1,064百万円と前年同期と比べ169百万円(19.0%)の増収となり、セグメント利益(営業利益)は71百万円と前年同期と比べ31百万円(30.5%)の減益となりました。コックピット用液晶ディスプレイの表面ガラスへの蒸着など二光光学株式会社を買収したことによる売上高の増加がありました。一方で、光学事業の減産に伴う固定費配賦額の増加により製造コストが増加しました。

④その他

当第3四半期連結累計期間の売上高は601百万円と前年同期と比べ71百万円(13.5%)の増収となり、セグメント利益(営業利益)は84百万円と前年と比べ48百万円(134.0%)の増益となりました。ガラス溶融炉の設計等の請負により売上高が増加しました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末と比べて555百万円増加し、8,037百万円となりました。

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ1,007百万円の増加となりました。この主な要因は、現金及び預金が848百万円増加、仕掛品が183百万円減少、流動資産その他が293百万円増加したことなどによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ451百万円の減少となりました。有形固定資産が182百万円減少、投資その他の資産その他が293百万円減少したことなどによるものであります。

この結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べ555百万円の増加となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ196百万円の増加となりました。この主な要因は、短期借入金が増加したことです。

増加したことなどによるものであります。

固定負債は前連結会計年度末に比べ921百万円の増加となりました。この主な要因は、長期借入金が増加したことなどによるものであります。

この結果、負債合計は1,117百万円の増加となりました。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ562百万円の減少となりました。この主な要因は、利益剰余金が595百万円減少したことなどによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

これまで連結業績予想は未定としてきましたが、最近の業績動向や現時点で入手可能な情報及び予測等に基づき、予想値を公表いたしました。本日(2021年2月12日)公表の「2021年3月期業績予想並びに営業外収益及び特別損失の発生に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2020年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,078,839 | 1,927,674 |
| 受取手形及び売掛金 | 1,136,119 | 1,154,420 |
| 商品及び製品 | 321,887 | 348,743 |
| 仕掛品 | 969,840 | 786,056 |
| 原材料及び貯蔵品 | 85,190 | 88,258 |
| その他 | 62,848 | 356,650 |
| 流動資産合計 | 3,654,725 | 4,661,803 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 1,039,200 | 985,552 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 901,427 | 771,973 |
| 土地 | 703,014 | 764,514 |
| リース資産(純額) | 266,460 | 225,695 |
| 建設仮勘定 | 247,776 | 225,932 |
| その他(純額) | 65,873 | 67,939 |
| 有形固定資産合計 | 3,223,751 | 3,041,607 |
| 無形固定資産 | 116,280 | 128,796 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 28,581 | 39,704 |
| その他 | 458,888 | 165,502 |
| 投資その他の資産合計 | 487,470 | 205,206 |
| 固定資産合計 | 3,827,502 | 3,375,610 |
| 資産合計 | 7,482,228 | 8,037,414 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 361,280 | 305,182 |
| 短期借入金 | 570,000 | 845,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 688,618 | 773,010 |
| リース債務 | 76,078 | 78,291 |
| 未払法人税等 | 14,936 | 18,507 |
| 賞与引当金 | 64,833 | 20,871 |
| 未払金 | 221,559 | 167,896 |
| その他 | 111,104 | 95,767 |
| 流動負債合計 | 2,108,411 | 2,304,526 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 2,557,769 | 3,546,729 |
| リース債務 | 296,542 | 238,928 |
| 繰延税金負債 | 9,676 | 11,458 |
| 退職給付に係る負債 | 340,136 | 328,320 |
| 資産除去債務 | 50,038 | 52,036 |
| その他 | 24,482 | 22,246 |
| 固定負債合計 | 3,278,645 | 4,199,720 |
| 負債合計 | 5,387,057 | 6,504,247 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,486,025 | 2,495,740 |

| | | |
|---------------|------------|------------|
| 資本剰余金 | 724,621 | 734,225 |
| 利益剰余金 | △1,040,968 | △1,636,684 |
| 自己株式 | △429 | △429 |
| 株主資本合計 | 2,169,249 | 1,592,852 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △4,422 | 628 |
| 為替換算調整勘定 | 34,777 | 36,504 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △93,247 | △85,608 |
| 繰延ヘッジ損益 | △11,185 | △11,209 |
| その他の包括利益累計額合計 | △74,078 | △59,685 |
| 純資産合計 | 2,095,171 | 1,533,167 |
| 負債純資産合計 | 7,482,228 | 8,037,414 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日) |
|-----------------------------------|--|--|
| 売上高 | 4,235,431 | 3,255,250 |
| 売上原価 | 3,004,700 | 2,637,336 |
| 売上総利益 | 1,230,731 | 617,914 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 役員報酬 | 65,043 | 56,561 |
| 給料及び手当 | 319,808 | 287,398 |
| 賞与 | 26,074 | 14,882 |
| 退職給付費用 | 13,512 | 19,551 |
| 減価償却費 | 44,593 | 46,376 |
| 賞与引当金繰入額 | 10,307 | 5,049 |
| 旅費及び交通費 | 30,655 | 15,646 |
| 支払手数料 | 76,336 | 76,016 |
| 運賃 | 50,496 | 37,128 |
| 研究開発費 | 134,786 | 140,413 |
| その他 | 314,414 | 271,199 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 1,086,028 | 970,224 |
| 営業利益又は営業損失(△) | 144,703 | △352,310 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 288 | 3,711 |
| 受取配当金 | 2,109 | 1,169 |
| 助成金収入 | 19,280 | 67,133 |
| 業務受託料 | 4,040 | 4,207 |
| その他 | 6,049 | 10,525 |
| 営業外収益合計 | 31,768 | 86,746 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 42,210 | 44,248 |
| 為替差損 | 6,912 | 15,300 |
| 持分法による投資損失 | 63,527 | 40,078 |
| 支払補償費 | 33,817 | 42,427 |
| その他 | 7,636 | 15,412 |
| 営業外費用合計 | 154,103 | 157,468 |
| 経常利益又は経常損失(△) | 22,368 | △423,031 |
| 特別利益 | | |
| 投資有価証券売却益 | 37,589 | - |
| 固定資産売却益 | 3,945 | 55 |
| 特別利益合計 | 41,535 | 55 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 1,872 | 2,679 |
| 固定資産売却損 | - | 392 |
| 減損損失 | - | 130,961 |
| 希望退職関連費用 | - | 29,391 |
| 特別損失合計 | 1,872 | 163,424 |
| 税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△) | 62,030 | △586,401 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 21,296 | 4,344 |
| 法人税等調整額 | △285 | 4,969 |
| 法人税等合計 | 21,011 | 9,314 |
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | 41,018 | △595,715 |

親会社株主に帰属する四半期純利益又は
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)

41,018

△595,715

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日) |
|-------------------|--|--|
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | 41,018 | △595,715 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △28,109 | 5,051 |
| 為替換算調整勘定 | △611 | 1,726 |
| 退職給付に係る調整額 | 3,071 | 7,639 |
| 繰延ヘッジ損益 | 636 | △24 |
| その他の包括利益合計 | △25,012 | 14,392 |
| 四半期包括利益 | 16,006 | △581,322 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 16,006 | △581,322 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) | 合計 |
|-----------------------|-----------|---------|-----------------|-----------|------------|-----------|
| | 光学事業 | 照明事業 | 機能性薄膜・ ガラス事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 2,285,401 | 525,813 | 894,102 | 3,705,317 | 530,114 | 4,235,431 |
| セグメント間の 内部売上高又は振替高 | - | - | - | - | - | - |
| 計 | 2,285,401 | 525,813 | 894,102 | 3,705,317 | 530,114 | 4,235,431 |
| セグメント利益 | 359,492 | 6,270 | 102,479 | 468,242 | 36,270 | 504,512 |

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デンタルミラーなどの医療向けガラス製品、洗濯機用ドアガラスなどを含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|----------|
| 報告セグメント計 | 468,242 |
| 「その他」の区分の利益 | 36,270 |
| 全社費用(注) | △359,809 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 144,703 |

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていた一部事業について、事業展開に即した見直しを行ったことにより、「機能性薄膜・ガラス事業」を新たに報告セグメントとしております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) | 合計 |
|-----------------------|-----------|---------|-----------------|-----------|------------|-----------|
| | 光学事業 | 照明事業 | 機能性薄膜・ ガラス事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 1,191,179 | 398,207 | 1,064,053 | 2,653,440 | 601,810 | 3,255,250 |
| セグメント間の 内部売上高又は振替高 | - | - | - | - | - | - |
| 計 | 1,191,179 | 398,207 | 1,064,053 | 2,653,440 | 601,810 | 3,255,250 |
| セグメント利益又は 損失(△) | △175,934 | △879 | 71,181 | △105,632 | 84,869 | △20,763 |

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デンタルミラーなどの医療向けガラス製品、洗濯機用ドアガラスなどを含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

| 利益 | 金額 |
|--------------------|----------|
| 報告セグメント計 | △105,632 |
| 「その他」の区分の利益 | 84,869 |
| 全社費用(注) | △331,547 |
| 四半期連結損益計算書の営業損失(△) | △352,310 |

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 | 全社・消去 | 合計 |
|------|---------|-------|-----------------|---------|--------|-------|---------|
| | 光学事業 | 照明事業 | 機能性薄膜・ ガラス事業 | 計 | | | |
| 減損損失 | 109,942 | 1,017 | - | 110,959 | 20,001 | - | 130,961 |

(のれんの金額の重要な変動)

「機能性薄膜・ガラス事業」において、二光光学株式会社の株式取得に伴い、第1四半期連結会計期間より、同社を連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において34,258千円であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

フラットパネルディスプレイの価格低下、新型コロナウイルス感染拡大の影響でプロジェクター需要が低迷したことで、当社グループは、反射鏡とフライアイレンズの販売数が減少いたしました。当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比で23.1%減少し、当第3四半期連結累計期間の経常損失は423百万円となりました。

細菌・ウイルス不活性化の効果がある深紫外線の反射膜の販売、5G通信部品用ガラスフリットの販売などWithコロナあるいは加速するデジタルトランスフォーメーションに対応した製品展開を進めていますが、既存事業の売上高の減少を補うには至らず、当連結会計年度末において、経常損失を計上する見込みとなっております。

この結果、当連結会計年度において、金融機関との間で締結しているシンジケート・ローン契約に付されている財務制限条項に抵触するおそれがあり、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

上記の深紫外線の反射膜、5G通信部品用ガラスフリットの販売に加えて、深紫外線用バンドパスフィルターの開発、今後のプロジェクター用部品の需要回復の確実な取り込みで売上高を回復させ、設備投資の抑制などによる固定費の削減を進めることで収益性を改善させます。

当社の直面する様々な事業課題の解決と事業構造の改革を目的としたプロジェクトチームを立ち上げ、同チームの取り組みにより、徹底した事業部制の導入を推進しています。事業部の一元管理の下で、「創る」(開発)、「作る」(生産)、「売る」(販売)のサイクルを高速で回転させることで販売機会喪失を小さくします。

こうした業績の回復に向けた施策を実行していくことにより、売上高の増加、収益性の改善及び営業キャッシュ・フローの増加となり、当社の財務健全性の向上が実現できると考えております。

金融機関に対しては、業績の回復に向けた施策を説明し、契約の更新及び取引の継続に向けて協議を進めております。よって、継続企業の前提に重要な不確実性は認められないと判断しております。